



ちょっと気になります

—注意したい生理異常—

企画：
日本医師会

No.242

指導：東京大学大学院医学系研究科産婦人科 教授 武谷 雄二

正常な生理の期間とは？

正常な生理とは25～35日くらいの間隔で見られるもので、生理の長さは7日以内です。間隔がこれより短くても長くても排卵がみられないことがしばしばあります。

この場合、不妊となることはもちろんですが、この状態が長く続くと、30～40歳代で子宮の内側をおおっている子宮内膜という組織が悪性化することがあります。ただし、これはきちんとホルモン治療を受ければ予防可能です。



長く続いたり、痛みがある場合

生理が8日以上続く場合には、卵巣の働きがいくらか低下しているか、子宮の内側に子宮筋腫やポリープなどが発生していることがあります。

生理はきちんと来るものの生理痛が強く、薬をのんでも、つらくて仕事ができないようなときは、子宮内膜症や子宮腺筋症といった婦人科疾患がひそんでいることも考えられます。特に、ここ数年の間に痛みが次第に強くなってきたという場合には、これらの疾患が原因となっている可能性が高まります。



生理の量が心配？

生理の出血量が多くて心配という方もよく見受けますが、貧血がなければ、まず問題ありません。貧血を伴うときは子宮筋腫や子宮腺筋症が関係していることがよくあります。逆に生理の量が少ないという訴えもあります。これは不妊の原因になり得ますが、お子さんを希望されない場合には心配ありません。

生理が終わるのは48～53歳くらいが平均的です。45歳未満で閉経を迎えると、女性ホルモンの不足により、骨がもろくなったり動脈硬化が進むといったことがありますので、かかりつけ医にご相談ください。

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。